

# 今ならまだ間に合う 立ち止まって再検討を 立野ダムは危険

## 現地見学会に 参加しました

山本のぶひろ県議は10月20日、「立野ダムによらない自然と生活を守る会」の皆さんが主催した「立野ダム建設現地と北向山を見る会」に参加しました。「阿蘇自然守り隊」の方々にご説明いただきながら、ダム建設地周辺の現状を見学しました。



立野ダム現地見学会に参加した山本のぶひろ県議(右)

い火山性の地質で、近くには活断層も確認されています。北向山をはじめ周辺の山々は、熊本地震とその直後の豪雨災害で無数の崩落と地割れが発生し、いまも崩落が日々進行している状況です。

## 「極端豪雨」から住民を守るには？

### 温暖化とダム問題 の学習会に参加

11月16日、「地球温暖化は極端豪雨をどう変えるか？立野ダムの安全性を考える」と題して、香川大学の寺尾徹教授(気象学)の講演が行なわれ、山本のぶひろ県議も参加しました。

寺尾教授は、最近の豪雨被害の特徴について、単に降雨量が増えただけでなく、ある地域に極端な豪雨が発生し被害が拡大すること、それはどこでも発生しうることを、など説明。ダムを前提とした治水策の危険性がうきぼりになりました。

こうした場所に立野ダムをつくらば、洪水時に大量に押し寄せてくる流木や岩石等により、ダムの下部に設置されている放流孔がふさがり、ダムの洪水調節機能がたちまちのうちに失われてしまう危険性があります。このような場所に立野ダムを建設することの危険性を、あらためて実感しました。

## 災害対策全国交流 集会に参加しました

11月24日、災害対策全国交流集会が神戸市で開催され、山本のぶひろ県議も参加しました。

集会では、塩崎賢明神戸大学教授が「今日における災害復興の課題と展望」と題して講演。阪神・淡路大震災では、復興事業費の大部分が再開発などの大型公共事業に投じられた実態を示し、「創造的復興は言葉の上では美しいが、これまでの実態を見ると、インフラや新たな開発事業が中心で、住民の生活は元の状態よりも良くなっていない」、「復興策は『誰のために、何のために』行なわれるものかを考えることが大事だ」などと解説されました。

## ダムによる災害の リスクここにも 瀬戸石ダムの堆積土砂を視察

12月1日、山本のぶひろ県議は、坂本登・芦北町議らとともに、球磨川の瀬戸石ダムの土砂堆積状況を視察しました。  
瀬戸石ダムは電源開発株式会社



ダム湖に堆積した土砂を視察する山本県議

社が所有する、発電を目的とした重力式コンクリートダムで1958年に建設されましたが、ダム湖の堆積土砂が膨大な量となり、水位を押し上げ、水害被害の拡大につながっていると、深刻な被害をもたらしています。またダムによって下流への川砂の供給が減少し、環境に悪影響を及ぼしています。

住民の声に押されて電源開発は毎年ダム湖の堆積土砂撤去作業をおこなっていますが、環境復元や水害被害軽減のためには瀬戸石ダム撤去こそが何よりも重要です。



災害対策全国交流集会=11月24日

# 日本共産党 県議会だより 山本のぶひろ

2019年  
12月号

熊本市中央区水前寺6丁目18-1  
電話096-3333-2647  
ファックス 385-0255  
HP「日本共産党 山本のぶひろ」

## 暮らし優先の政治への転換求め 各省庁との交渉を行ないました

### 熊本の一部損壊 被災者にも支援を

政府交渉には田村衆院議員、真島前衆院議員、仁比前参院議員にも同席いただきました。(11月13,14日)

熊本の一部損壊被災者にも支援を  
山本のぶひろ県議は11月13・14日、「いのち・平和ネットワークまも」との皆さんや党市議団らとともに、県民要求の実現を求めて各省庁と交渉しました。要望項目は厚労省、国交省、財務省、文科省、環境省、経産省、内閣府に対して約40項目。

被災関係では、これまでは公的支援の対象外だった一部損壊の住宅に対しても、「応急修理補助の対象とする」との見直しが行われたことを受け、「熊本地震の一部損壊も、未だに修理できていない家屋が存在する。ぜひ支援を適用すべき」と迫りました。また国保や介護の負担軽減、教職員の増員、水俣病解決へ沿岸住民の健康調査の実施、立野ダム中止、中小業者への支援強化など求めました。

## 気候変動のもと、河川の安全が住民の大きな関心事なのに

## 多くの流域住民に知らせぬまま 河川整備計画を策定してよいのでしょうか

白川河川整備計画

国土交通省はいま、白川の河川整備計画の変更手続きを進めています。しかし、そのことが存じない住民の方が多いのではないのでしょうか。

気候変動のもと、自然災害からいかにして住民の暮らしを守るか、ということが重大な関心事となっています。しかも国交省が提示している変更原案は、「想定外の事態が起きれば逆に危険ではないか」と指摘される立野ダム建設を前提としています。熊本市の中心を流れる白川

の整備計画の内容が大多数の住民に知らされないまま、意見も聞かずに決められていくことは大問題です。

山本県議は11月13日の対国交省交渉でも、あまりに片手間の住民説明会の実態を伝え、あらためて説明会をやり直すよう求めました。

山本のぶひろ県議は10月23日、熊本市中央区で開催された住民説明会に参加し、立野ダム建設を前提とした河川整備計画に疑問を表明しました。説明会で当局側は、「担当者が出席していない」として、立野ダム建設に関連する質問にはまともに回答しない態度に終止。とうてい納得が得られたとは言えない説明会でした。



熊本市中央区での説明会で発言する山本のぶひろ県議

## 12月の無料法律相談会のお知らせ

日時 ・12月18日(水) 13時30分から

場所 山本のぶひろ生活相談所  
(中央区渡鹿5丁目19-7)

弁護士 久保田紗和さん(熊本中央法律事務所)  
事前の予約が必要です。お問合せは362-5181まで。



▼開催中の11・12月県議会に「私学助成をすすめる会」の皆さんから、私学助成制度の拡充を求める請願が提出されました。高校の授業料無償化の流れは広がっています。熊本県は私学に通う高校生が全国5番目に高いにもかかわらず、この5年間ほとんど助成額が変わっていません▼くまもと民主連合や立憲民主党の議員各氏とともに、私学の生徒さんらの訴えをお聞きしました。「家族に負担をかけているのがつらい」との言葉に胸が痛くなりました。若者の未来を応援する社会でなければならぬと強く思いました▼「桜を見る会」では、首相による税金私物化の疑惑が指摘されています。若者に希望の光を照らすべき政治が、若者から見放されるようでは話になりません。